

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 10 回審議会			
日 時	平成 26 年 12 月 12 日 ( 金 ) 午後 3 時 ~ 5 時			
場 所	宇治市役所 8 階 大会議室			
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子
		○ 門脇 洋子	× 弓指 義弘	○ 六嶋由美子
		○ 迫 きよみ	○ 大井 悟	○ 木村 孝
		× 杉本 厚夫	× 桑原 千幸	○ 長積 仁
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 ( 教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長 )		
		○ 松崎 満 ( 教育部次長(兼)教育支援センター長(兼)一貫教育課長 )		
		○ 富治林 順哉 ( 教育支援課長 )		
		○ 安達 昌子 ( 生涯学習課主幹 ( 兼 ) 生涯学習センター主幹 )		
		○ 今莊 真樹 ( 生涯学習課主幹 )		
		○ 西村 比口支 ( 生涯学習課生涯スポーツ係長 )		
		○ 北池 顕子 ( 生涯学習課事業係長 ( 兼 ) 生涯学習センター主査 )		
		○ 前田 紘子 ( 生涯学習課生涯学習係長 )		
		○ 村上 信之 ( 生涯学習課生涯学習係主任 )		
○ 粕谷 祐次 ( 生涯学習課生涯学習係主任 )				
傍聴者	0 名			

会議要旨は、下記のとおりである。

・第 9 回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1 . 報告事項

( 事務局 )

・第 56 回全国社会教育研究大会 ( 徳島大会 ) について

平成 26 年 10 月 22 ~ 24 日開催。全大会、分科会ともに会場はアスティとくしま。出席委員は 2 名。全大会では、「自分の舞台の活かし方」という演題で株式会社いどりの横石知二氏が講演された。シンポジウムでは「防災でつながる地域の絆」というテーマで、学校・地域・家庭の連携で防災生涯学習を進める取組について意見交換があった。翌日は 5 つの分科会の中から第 3 分科会「地域社会を支える」と第 5 分科会「集い支え合う」に参加した。来年度は平成 27 年 10 月 7 ~ 9 日に大分県で開催予定。

(委員)

参加した分科会で「社会教育委員のしごと」についての話があった。地域の課題が何かを見つけて、学校・行政・地域・家庭を連携させてどのように整理していくかが社会教育委員の使命ではないかとコーディネーターがおっしゃっていた。地域・住民・行政を巻き込んで新しい公共を作り、課題解決の仕組みを作ることが社会教育であるという話だった。

(委員)

参加した分科会では「社会教育施設を核にした地域の絆づくり」として岡山県新見市正田公民館の取り組みを聞いた。公民館に学童保育があり、子どもが大きくなった 55 歳以下の親の会や 60 歳以上の頑固爺さんの会など様々な世代の人が集まる場になっているとのこと。館長も熱心で、何かやりたいという相談ができる、地域や暮らしの課題が話し合える公民館であるかどうかが大事。

・平成 26 年度京都府社会教育研究大会（綾部市）について

平成 26 年 11 月 27 日に綾部市中央公民館で開催。出席委員 5 名。午前は、開会行事のあと、全体会パネルディスカッションが行われた。内容は、「安心できる地域づくり ～大切なつながり、地域・人～」をテーマに、3 名のパネリストにより地域での取り組みが紹介された。午後は参加者が 7 つの分科会に分かれ、全分科会とも全体会と同じテーマで約 2 時間にわたり意見交換がされた。

(委員)

木津川市では社会教育委員の活動を市民に知ってもらうため、寸劇を練習し発表予定とのこと。

(委員)

パネルディスカッションで、小学校の授業参観時に PTA で託児所を開設した話をされた方と同じ分科会だった。自分の子どもだけ見ていたのが、他人の子どもも見ることになった。参画することが実践につながり、参加者がお客さんになっていない。信頼も増す。誰かが仕掛けを作ってドアを開けたら、みんな入ってくるのだなと感じた。

(委員)

殺人事件があった地域に住んでいる人が地元を良くしたいという思いから、いち市民としてよりも社会教育委員として意見を言う方が行政につながると考えて、社会教育委員になったと話していた。社会教育委員と教育委員との交流がもっとあってもいいのではという意見も出ていた。

・「生涯学習の秋！人材バンクの展示と体験コーナー」について

平成 26 年 10 月 27～31 日（金）までの 5 日間、宇治市役所本庁舎 1 階ギャラリーコー

ナーにて開催。登録講師による展示と体験の機会を設け、より多くの方に人材バンクを知ってもらうことを目的とした。日替わりで作品づくりや健康体操の体験などを実施し、延べ 134 名の参加者があった。当審議会の六嶋委員にも出展していただいた。

(委員)

開催日が 11 月 1 日の古典の日に近く、PR したいと考え出展させてもらった。

・大西利治文庫創設記念及び子どもの読書活動推進事業について

平成 26 年 10 月 18 日に 3 つのイベントを行った。まず中央公民館にて宮西達也さんの大型絵本を使って、菟道小学校図書館ボランティア「たんぼぼ」さんによるおはなし会を実施。続いて、中央図書館にて「大西利治文庫」創設記念式典を行った。故・大西利治さんの遺志に基づき購入した児童書や書棚を披露した。その後、文化センターにて「宮西達也さんと絵本の世界～にゃーごのやさしさ、ティラノの思いやり～」と題して、絵本作家・宮西達也さんの講演会を開催した。中央図書館開館 30 周年を記念して市内 3 図書館で子ども向けに「どくしょつうちょう」を配布しており、好評を得ている。

・生涯学習関連事業調査について

「宇治市生涯学習推進プラン(宇治まなび AIUEO プラン)」に基づく、生涯学習の取り組みについての全庁的な調査。今回は平成 25 年度に実施した事業についての点検を行い、集計した。対象となる事業は合計 271 件。「生涯学習推進プラン」は平成 25 年度末で計画年度が終了し、「宇治市教育振興基本計画」が策定された。今回調査まで暫定的に「生涯学習推進プラン」に沿って調査してきたが、次回より調査方法を変更する。

## 2. 協議事項

・今期のテーマについて

(事務局)

先日送付した「第 6 期生涯学習審議会 これまでの審議経過 テーマ別」に目を通していただいているかと思う。様々な意見を、以下の 4 つのテーマに分けてまとめた。報告書作成への構成として、学校をめぐる地域活動の現状。学校にとどまらず孤立化、人とのつながりについて。それらの抱える課題。どんな子どもを地域で育てていくのか。ここは子どもがキーワードとなり、回を経るにつれて掘り下げられている。そして、新しい形の支援活動の提案、提言をまとめる。という流れを考えている。

(委員長)

今日は報告書をまとめるための議論をお願いしたい。みなさんの意見を聞かせてもらって、事務局が現状や課題などの概要部分を、委員長が提案の部分をまとめる。次回にはみなさんに目を通してもらう形にまで作っていきたい。

元々は、学校に入っていく NPO やボランティアをコーディネートする役割が必要だと言

う話から始まったが、一方で別の対応も必要ではないかという意見が出てきた。参加した研修会での話にもあったが、子どもをお客さんにしないための関わり方ができる人をどうやって育てるのか、ということに焦点が向いてきた。お客さんにしない形の支援はものすごく難しい。どういうことをすれば育てられるのか。自立した市民が新しい公民である、ということとつながっていると思う。自分がやることには積極的だが、社会還元になかなかつながらない人が多い。還元する市民を育てるにはどうすればいいか。公民館は公民を育てる最初の種まきをする場所だった。新たな種まきが必要ではないか。

(委員)

種まきをするにしても、優秀な種を選抜するのが難しい。

(委員)

もうちょっとテーマを絞ってもらえないと、広すぎて戸惑う。

(委員長)

学校支援について議論してきているので、まずはどういう考え方で子どもたちを支えるかについてから話したい。

(委員)

本当に学校は支援を望んでいるのか。学校は大変忙しい。地域の方は社会教育委員が誰かも知らない。地域の人と一緒にどう学校に関わっていくのかと言われても、誰をターゲットにして、どんな話をしていけばいいのかというシステムが出来上がっていないのが現実。地域や学校単位でコーディネートしてくれる人が一人いれば、この人に相談すれば地域と学校の協力を得られるという状況が作れるかどうか。

もう一つの課題は、時間的な余裕をどう確保していくのかということ。学校が望んでいる支援を社会教育委員や地域の人とやっていく土壌があるのか。システムがきちっと作り上げられない限り、机上の空論で終わってしまうのではないかと個人的に思う。

(委員長)

ご自身の立場として、学校支援が必要とお考えか。

(委員)

地域に開かれた学校というテーマで学校運営をなされているので、関わりのある地域の団体と年に 2、3 回程度会合を持っている。学校側から協力してほしい提案をすると、ある程度力を貸してもらえる。会合に参加していない団体から学校と交流したいと申し出があった場合は、個別具体的に協力を依頼している。団体ごとなので、一つの組織になっていないことが課題。

(委員)

学校と関わりをよく持っているのだが、自分たちが提案することが学校に迷惑をかけるのではないかと思って、なかなか言えない。受け身になってしまう。地域への依頼に積極的な学校と、そうでない学校がある。全ての要望には応えられないが、言ってもらった方が、地域はやりやすい。

(委員)

自分の子どもが、出身中学の部活に教えに行きたいが申し出ていいのか迷っている。他にもそんなことを考えている子がいるかもしれない。青年の想いを聞くような場所、青年が集える場所が宇治市にはない。生涯学習センターでは年間を通じて青少年が集える事業を行っているが、市内で 1 か所ではなく、公民館で青年が集って良い日を作って、青年の想いを醸成するコーディネーターがいてくれたら。学校も OB なら来てもらいやすいのではないか。青年にも学校に帰っていく機会になり、結婚後などもつながっていくのでは。今改善するというより、今から種まきをしていく気持ちで。

(委員)

黄檗まつりは、比較的最近始まったイベントだが、学校や先生方に負担をかけているのだろうか。

(事務局)

地域で子どもを育ててもらおうという非常に大きな意味を持っている。だから学校も協力している。当日の仕事は確かに教員にとって負担になっているが、それを負担と捉えるのか、地域と一緒に青少年健全育成をしていると考えるのかで感じ方が違ってくる。地域との連携を欠かすと、健全育成に悪影響が出る。

(委員)

前回審議会でお話しした「あそび塾」をやっている人に改めて話を聞いた。同じ人間がやっていることが長続きの理由だと思っているとのこと。他所は人が替わって、事業が続かなかった。現在はあそび塾を卒業した高校生も手伝ってくれている。中学生も高校生になったら手伝いたいと言ってくれている。開始後 15 年を経過したが、ずっとチラシを作っていて継続されている。

(委員)

あそび塾のすごいところは、学校をあてにせず地域で子どもを育てるという信念を持ってやっている。学校と地域が一緒になって子どもを育てるという考え方もあるが。

(委員長)

行政に対しても言えること。行政に手伝ってもらう、ではなく、我々が行動するから行

政も動かそう、といった視点が必要になってくる。

(委員)

地域で子どもを育てるために地域と学校の連携を前提に提案するのか、それとも子どもの育成に際して何を重要視しどう育てるのか、どちらを軸に議論すればいいのか。

(委員長)

絵空事にならないような提言をするために、どちらも含めて議論したい。子どもの何を育てるのかと話し出すと議論は尽きない。地域から情報を収集して、学校へ有益な情報を流せるようにコーディネーターがやはり必要では。この場で方向を決めると間違ってしまう可能性がある。

(委員)

既存団体の昔からの考え方は強いと感じる。自分としては、生涯学習・社会教育の中で全く新しいものを作りたい。既存の団体のためにコーディネーターは必要だと思うが、社会教育の課題全てにあてはめることができるような大きなものを考え出すことはやってやれないことはないと思う。

(委員長)

既存のものだけではなく新しいこともコーディネートする役割が必要。

(委員)

今、ひとり親家庭が増えている。PTA 役員を担う保護者といえば父母だったが、祖父母が役員を務めるケースはあるのか？

(委員)

本校にはいない。今、率先して PTA 役員が立候補により決まることは少ない。多くの学校が選挙で決めている。選挙で決めると役員会になかなか出席しないこともある。

(委員)

自分の子どもの学校で熱心に PTA 活動をしていた人がいて、次は孫のために PTA 役員になる、と言っていた。

(事務局)

元々、PTA はペアレント＝ティーチャー・アソシエーションの略称なので、祖父母の役員までは想定していない。とはいえ、PTA の保険の被保険者対象には祖父母が含まれているので、活動に参加すること自体は想定しているのでは。

(委員)

育てる友と書いて育友会という名称もある。名称を PTA に変更しようとしたら、地域のお年寄りが反対したと聞いている。

(委員)

宇治市は呼称を統一していない。

(委員)

全国的に見ても、育友会という呼称を使っているのは京都に多くて、他府県では使われていない。意味を聞いて納得される。20 年ほど前に他市で、甥っ子のために PTA 役員をやった人がいると聞いたことがある。

(委員)

民生委員をやっていて、ひとり親家庭が増加していると肌で感じる。経済的基盤がないと子育ては大変だと思う。最近の保護者の中には何かあると学校を飛び越えて、直接市教委に話を持っていく人がいると聞いた。私は社会教育委員は「にがり」のように、学校と地域と家庭をくっつける役割をしなくてはいけないのではと考えている。保護者に対してアドバイスをしたり、雑談の中で行政の情報を発信すれば、直接市教委に要求するようなことはなくなるのではないかと。学校の先生は夜遅くまで仕事をされていることを保護者は知っているのだろうか。先生を過度に追い詰めている気がする。

(委員長)

当審議会としては地域の立場から提言することとなる。

(委員)

学校など、どこかに所属のある子どもはいいが、乳児はどこにも所属しないので、町内会・子ども会にも入っていない家庭はどこにも属していない。地域が大切になってくる。子どもが小中学生だと何かしら地域とのつながりがあるのだが、高校生・大学生になると、親子とも地域に所属している意識が薄れてしまう。地域とつながる仕組みがあればいいのだが。

(委員長)

どんどん都会化することで地域意識が薄れていく。親に意識がなければ、その子どもにも意識は生まれない。

(委員)

今、手元にデータはないのだが、とある調査機関が 10 年ほど前に取ったワークライフバランスを軸にした詳細な調査と、最近ネットで行われた簡単なアンケートを比べたら、

乳幼児がいる家庭で育児不安を抱える人の割合は変化がなかったが、困ったときに尋ねる相手として友人や近所の人を挙げる割合はかなり減っていた。リアルな地域の人間関係を頼りにする割合が激減していた。

(委員)

地域の中学校で生徒会役員・学級委員と「ふれあい懇談会」を開催している。ラウンドテーブル方式で、自分の子ども時代の失敗談などを話した。地域の大人に見守られていると感じたという感想文を後日もらった。主に小学生対象の事業を行っているが、中学生に手伝ってもらえる機会も設けている。もっと中学生の地域での出番を作りたい。

「地域の先生」と称して、地域の大人が特技などを活かして授業とは異なる体験を提供する事業も行う予定。「そうだ、学校へ行こう。子どもたちが待っている」をキャッチフレーズに、学校と関わっている。授業参観にも行くが、祖父母の参観はすごく増えている。元気なおじいちゃん・おばあちゃんを学校とつなげたい。

(委員)

この審議会で話し合っているだけではダメだと思う。学校の見守り活動では全小学校の活動者が集まる会議があり、活動内容を報告し合った。同じように学校支援会議として、地域で何かをやっている人やひと声掛ければ地域団体が協力してくれるような人が集まって、何ができるかメニューを作ることができることを提案し合う場が必要では。情報がないと行動につながらないので、横の連絡は必要。

(委員長)

今までの提言の効果は検証していない。今回、システムを作ることを提言しても実現するかどうかわからないが、調査をして場を作ることは必要。提言をしておしまい、にならないための内容を提言したい。

(委員)

過去には公民館運営審議会では人材バンクを提案して、実現はした。自分たちが活動している地域以外の、宇治市全体の活動を話し合える場がない。

(委員)

例えば、エリアごとに特化したものを頑張ることで地域づくりをしてはどうか。音楽や歴史などそれぞれ活動する分野を中学校区ごとに設定して、地域に固執することも大事だが、市内を練り歩けば自分のやりたいことが見つかるようなネットワーク作りができれば、いろんな世代の人が集まるのでは。なぜ、このようなことを思いついたかということ、京都国体をきっかけに京田辺市はハンドボールが根付いた。何かヒントはないか。

(委員)

国体の後、毎年小学生の全国大会を開催している。その後、中学高校大学とプレーする道も開けているので、どんどん浸透していった。

(委員)

そこまでメジャーではない種目があれだけ盛り上がるには、何かあるはず。

(委員)

宇治で活躍している「ママさんプラス」は、学生時代に吹奏楽に親しんだお母さんたちが子連れで地域活動している良い事例だと思う。子ども時代に育った文化の芽を社会に還していくと考えるなら、宇治ならではの文化を作ることが課題解決につながるのかもしれない。宇治だったら、みんなこれができるとか。西京極にあるフットサルコートは時間帯によってはゲートボール場として利用されている。朝は赤ちゃんが芝生の上で遊んで、昼間はお年寄りがゲートボールを楽しんで、夕方は子どもが、夜は若者がフットサルに興じるといったように、同じ施設をいろんな世代が共有・交流できたら面白い。

(委員)

昔、連合育友会が開催した「ユートピア」(かつての宇治市の補助事業)はいわば遊びの特区だった。宇治市と宇部市のスポーツ交流も京都国体がきっかけで現在も行っている。宇治には交流事業の基礎はあるのではないか。

(委員)

「ユートピア」の時代は行政職員もPTA役員もものすごく熱心だった。今はPTA役員を選挙や抽選で決める時代になっている。

(委員)

保護者たちが子どもたちをどう育てるのか、地域でどう育てていくのかというコンセンサスができていない。個別に思いを学校へ伝えるので、一人の意見を聞かざるを得ないときがある。社会教育と学校教育の一体化と言われてもなかなか合致してやっていくことができない。新しい形の支援は何らかの組織を作って、お互いが子どもたちをどう育てていくのかを話し合うシステムをまず作らないと進まないと思う。

(委員)

この審議会の中の共通意見が出たとしても、外では違うこともありえる。

(委員)

地域で音楽を、となっても音楽のできる人がいないとできない。隣の地域にならいる、とか横の連絡が必要。

(委員長)

かなり方向が定まってきたのではないかと。

### 3. その他

(事務局)

#### ・平成 27 年宇治市成人式について

平成 27 年 1 月 12 日(月・祝)に宇治市文化センターで開催予定。対象者は住民票のある 2,024 人となっており、成人式のパンフレットや各種おしらせなどを発送した。当日は 14 時から第一部記念式典、14 時 20 分から第二部特別企画が行われる。第二部特別企画は 7 月より会議を重ねた新成人の実行委員会による企画で、当日の司会も全て実行委員が行う。企画内容は恩師のビデオレター、ゲストステージ、抽選会となっている。

#### ・宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

いずれも対象は平成 26 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に優秀な成績を収めた者であり、募集は平成 27 年 1 月 9 日まで。1 月 29 日の選考会を経て、表彰は 3 月 1 日の市政施行記念日に行われる。

#### ・第 31 回宇治川マラソン大会について

平成 27 年 2 月 22 日に開催予定。ハーフマラソンの復路コースを変更した。申込み開始から 10 日の現時点ではハーフマラソンの申込者が定員の半分近くに達している。

#### ・宇治市スポーツ振興計画の見直しについて

見直しの検討委員会を立ち上げ、生涯学習審議会委員にも参加していただいている。12 月 19 日開催予定の第 4 回委員会で素案を提示し、年明けにはパブリック・コメントを募る予定である。

#### ・第 22 回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ 2015」の開催について

平成 27 年 2 月 7、8 日に生涯学習センターで開催予定。学びの場の提供として、実行委員会形式を採っている。出展者は 45 件(個人・団体)で、そのうち人材バンク登録講師は 6 件(個人・団体)となっている。

#### ・平成 26 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

平成 27 年 1 月 23 日午後 2 時より宇治市中央公民館にて開催予定。本市で開催されるため、受付や開会行事の司会など担当をお願いします。

#### < 次回の会議について >

平成 27 年 2 月 10 日(火)午後 2 時 00 分から